みんなの広場

▶東川沿いに咲く満開の桜の下を、お囃子を奏でながら新井町の山車がくぐり抜けます。「第14回東西新井町さくら祭り」（撮影／市民カメラマン・中村　仁）　３月31日㈯／東新井町

みんなのギャラリー

▲鳥になる気分を味わったハングライダー飛行体験。「第22回市民文化フェア」
４月７日㈯／航空記念公園
（撮影／市民カメラマン・津田資雄）

▲400人以上の市民の皆さんが参加し、青空の下、大きな踊りの輪を幾重もつくりました。「第19回所沢民踊まつり」　４月７日㈯／航空記念公園
（撮影／市民カメラマン・中村　仁）

▲ソメイヨシノをはじめ、しだれ桜、山桜など園内の桜約500本が開花、大勢の花見客でにぎわいました。
４月１日㈰／航空記念公園

▲小・中学生の選手278人が参加して、熱戦を繰り広げました。「第18回所沢市ジュニア卓球大会」
（撮影／市民カメラマン・村田ひろこ）
３月24日㈯／市民体育館

試して楽エコ!!

～古着や端布で作るカーネーション～

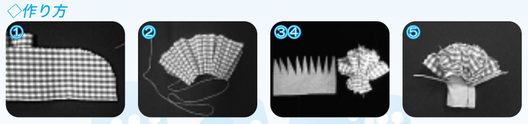
もうすぐ母の日。今年のプレゼントは、ちょっと目先を変えて手作りカーネーションはいかがですか？

タンスの引き出しを開けて、出番が無くなった衣類、たとえば小さくなった子ども服、着なくなったブラウスやスカートを見つけたら、赤やピンクのギンガムチェック、ストライプ、水玉模様などのすてきなカーネーションの花束に変身させてみましょう。

◇準備するもの（カーネーション１輪分）

①カーネーションの花の部分（木綿の端布90㎝×６㎝）②カーネーションのがくの部分（木綿の端布10㎝×６㎝）③ピンキング鋏（はさみ）・ボンド・裁縫用具

◇作り方



①花用の端布をピンキング鋏で切る（上角を丸く切ると仕上がりがキレイ）
②下から２㎝のところを端から端までザクザクとぐし縫いして糸を引く
③糸を引き、絞った布をくるくると巻き、糸を数回巻いて留める
④がく用布に切り込みを入れ、がくを作る
⑤③で作った花の部分に、がくを巻きボンドで留める

たくさん作ってお気に入りのカップや空箱に挿したらできあがりです。高さ４～５㎝に切った牛乳パックには４輪入ります。リボンを巻いてプレゼントにも使えますね。

◎このコーナーでは、暮らす・着る・食べる・住む・買う…など日々の暮らしの中で簡単に楽しみながらできるおしゃれなエコライフ、エコスタイルのヒントをご紹介していきます。

問い合わせ　リサイクルふれあい館・エコロ（☎2994-5374・FAX2994-1118）

皆さんからの投稿をお待ちしています

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『心に響く歌』▶文章は添削あり▶締め切りは５月７日㈪必着▶掲載者には記念品を進呈

◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501・並木１-１-１所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

はつらつ野老（ところ）っ子

見るのも見せるのも楽しいジャグリング！

志村　佳紀（よしのり）さん（小手指町在住）

子どものころ、おばあちゃんのお手玉を見て「すごいな～」って思った記憶がありませんか？このお手玉を発展させて、多数のボールやいろいろな物を空中に投げ続ける曲芸をジャグリングと呼んでいます。近年は愛好者が増え、競技会も活発に行われています。

今回は、所沢ジャグリングクラブに所属している高校生・志村佳紀さんをご紹介します。志村さんのジャグリングは、多数の球や棒を次々と空中に放ちながら循環させる「ボール・クラブ」、３つ以上の直列した長方体を空中に浮かせたまま落とさずに位置を次々と変えていく「シガーボックス」、お茶わんが２つくっついているような中国ごま２～３個を空中高く放ち、紐（ひも）を使って操る「ディアボロ」などの演技を中心に構成されています。いずれも迫力があり、見ごたえのある内容です。

10年前、当時流行していたヨーヨーに熱中していた少年は、テレビでジャグリングを見て「こんなすごい技ができたら、かっこいいなぁ！」とそのパフォーマンスに驚きました。引っ込み思案で人前に出ることが苦手だった少年は、ジャグリングと出会ったことで変わっていきます。今では演技を見せることはもちろん、お客さんとのコミュニケーションも楽しんでいます。

しかし、その道のりは平たんではなく、練習また練習の積み重ねでした。「航空記念公園で音楽を流しながら練習していると、次第に人だかりが出来てきます。でも失敗し続けると見てくれる人はすぐにいなくなってしまい、精神的にも辛いものがあります」と練習の虫は振り返ります。それでもジャグリングを続ける理由を聞くと、「観客が自分のパフォーマンスに歓声を上げてくれる瞬間が最高に楽しいから！」と17歳のジャグラーは目を輝かせます。

志村さんはご自身のホームページ（http：//www.yoshinoris.com）で技を紹介し、保育園、小学校、児童館などで“Juggler Yoshi”の名前で演技を披露しています。

みなさん、街角で志村さんのパフォーマンスを見かけたら、ぜひ歓声を浴びせてください！

志村さんの技に歓声を上げる子どもたち

歴史再発見 ところざわの文化財

所沢の地中を探る、遺跡の発掘調査

所沢の歴史や文化を知る手がかりの一つとして、遺跡の発掘調査があります。地中に埋もれている土器や石器あるいは住居や道路の跡などを総称して、埋蔵文化財と呼びます。その埋蔵文化財がある区域を遺跡と言い、市内の遺跡は現在165か所を数えます。

山口・山下後（やましたうしろ）遺跡の発掘調査

遺跡の発掘調査によって発見される出土品は、太古の人々の生き方や思いなど、実に多くのことを私たちに教えてくれます。土器には長い期間を通じて地域ごとにさまざまな形や模様の変化が見られます。そして食物を煮る、蒸す、蓄えるなど、調理や管理の進化に大きな影響を与えました。石器もその用途によって、あるいは材質によっていろいろな道具があり、いずれも時を経て積み重ねられた工夫の跡がうかがえます。住居はどこも高台で見晴らしのよい場所に建てられていたことがわかります。そこには、自然の恵みを受けつつも、決してその脅威には逆らわない先人たちの知恵や意識を垣間（かいま）見ることができます。

このように遺跡は、歴史を明らかにするための、祖先の生活を封じ込めたタイムカプセルといえますが、一方で土木工事によって常に破壊や消滅の危機にさらされています。しかも一度失ってしまうと二度と取り戻すことはできません。発掘調査は、地中の様子を記録するとともに、土器や石器などの出土品は保管して、可能な限り文化財を保護し、それを後の世の人々にも継承していくことを目的としています。

いにしえの人々の暮らしに思いを馳（は）せながら、今日も市内のどこかで発掘調査が行われています。

誰でもエッセイ

◆テーマ「温暖化」

「もったいない」の気持ちを大切に

上安松・三村　絹代

昔を思うと今は本当に暖かい。それなのに部屋の中はストーブ温風、床暖房と薄着でも楽々暮らしていけます。息子はシャワーを出しながら、孫たちをおふろに入れています。

地球が暖かくなって北極の氷が動き、南極の氷は解けて水位が上がり、小さな島々が沈んでいくニュースを見ると胸が痛みます。

みんなが注意して冷・暖房温度を２度上げ下げすることで、海の水位にも変化があると聞きました。

日々の暮らしの中でも、「もったいない」と感じることがたくさんあります。地球全体の事を考えて、一人ひとりがもっともっと、「無駄」について考えるべきだと思います。

文明の発達・科学の進歩とは何か

寿町・浅野　洋次

「温暖」という響きは心地よいものですが、「化」が付くと、地球の暗い未来の象徴になってしまいます。

さかのぼって約６千年前、縄文海進という似たような現象を人類は経験しています。このとき全地球的な気温上昇は＋２℃、海面上昇は５メートルに達し、海は入り間川沿いに川越・志木辺りまで押し寄せたといいます。これは地軸のブレが原因といわれ、やがて収まりました。

しかし、今度の「温暖化」はそうではありません。自然の摂理を侵した人類のブレが原因なのです。文明の発達・科学の進歩とはなんなのか。天に唾（つば）することをやめ、ひとまず立ち止まって振り返ってみませんか。

指導者たちには、イソップぐう話を読み返してほしいものです。

お天道様が怒っている

若狭・田原　敬三

「お天道様が怒っている」とは子どものころよく聞かされた言葉だ。地球温暖化は、まさにその例で天罰ではないかという気がする。

人間が無頓着（むとんじゃく）に排出する温室効果ガスが、地球上のあちこちに異常事態をもたらし、人々を苦しめ不安に陥れている。北極に異変が起き、将来氷が姿を消すとか、海面上昇によって太平洋の小島が沈んでいくという話は厳然たる事実であって笑いごとではない。

いつまでも“万物の霊長”などと自惚（うぬぼ）れていないで、自然を欲しいままに利用して後を顧みない横柄な考え方や罪な態度に対する神のお叱（しか）りと素直に受け止め、即刻改めるべきである。

“天に唾する”ようなことをいつまでも続けていれば、もっと厳しい天罰が下されることだろう。